



結

2021. 10. 22 No.102 yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0004

つくば市柴崎 68-103

TEL/Fax 029-858-2034



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

コロナ後の、新しい日本をめざして —選挙で格差のない、平和な社会を選び取ろう—

岸田新政権は「安倍・菅政権に別の仮面を付けただけ」(田中優子・元法政大学総長)

岸田首相は10月14日に衆議院を解散、総選挙は10月31日に行なうと発表した。9月2日に菅義偉前首相が突然退陣を表明して以来、日本の政治にはこれまでに見られなかった異常なことがさまざま起こっている。コロナ対策の失敗で国民の信を失い、退陣を余儀なくされた菅前首相への責任を問う声はないまま、自民党は総裁選告示日から選挙日までを含め、ほぼ1カ月近くにも及ぶ長い総裁選を設定する。この間、メディアは総裁選報道という形で自民党を宣伝した。10月4日に臨時国会を開いて首相を選挙、8日に首相の所信表明演説、各党の代表質問はその後11日から13日まで3日間で終らせ、14日には国会を解散、野党との議論は最小限に留めた。衆議院選挙は19日に告示、選挙日は31日で、選挙戦の期間は12日間、戦後最も短い期間となる。現衆議院議員の任期は10月21日までで、任期満了が過ぎてからの選挙は現行憲法下では初となる。こうした異常な決定は選挙に向けた与野党の論戦を最小限にとどめることで、岸田新首相が安倍・菅政権とほとんど同じ政治路線であり、国民のいのち、暮らし、人権を大事にしない政権であることが露見しない内に選挙を急いだ、ということを示すものとしか言いようがない。

衆議院選挙で、何が問われているか？

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」は、9月8日、選挙における野党共通政策を提言、立憲野党に「これらの政策を実行するため、協力して自公政権を倒し、新しい政治を実現する」よう求め、これに対し、立憲民主党・日本共産党・社会民主党・れいわ新撰組の代表4人が同意・署名した。

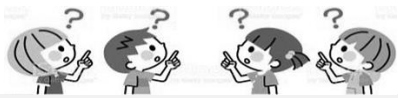
選挙で問われているのは、「自公政権による格差・貧困の拡大と社会、経済の停滞閉塞の継続」か、「野党協力による政権交代を実現し、人間の生命と尊厳、平等と自由、平和を最大限に追求する政策転換を実現する」か、について選択することに他ならない。

今回の選挙では、全289の小選挙区の約4分の3に当たる220の選挙区で野党候補の一本化を実現し、1対1の構図を作った「歴史的な選挙」となる。また、政権獲得後の政党間関係について、立憲民主党と日本共産党は「市民連合と合意した政策を実現する範囲での限定的な閣外協力」とすることで合意したことも「歴史的決定」と言えよう。

世論調査では、安倍・菅路線を引き継がない方がよいを選んだ人は55%、継続を選んだ人は23%に過ぎなかった(朝日)。同じ質問に、共同通信では転換すべきが69.7%になる。

これらの人々が投票に行こうと思うように、心からのメッセージを送りたい！

(長田満江 9条つくば事務局世話人)



アベ・スガ政治の9年間を継続するのか・・・

菅前首相は、政権の中では“過去の人”になりましたが、その後継の岸田総理・総裁も、党内の力関係に縛られて、アベ・スガ政治から脱却して新しい国民本位の政治に変えていくことはないようです。何よりも、岸田氏の党内人事・組閣人事にそれは表れているし、「人の話を聞く」と言いながら国会論争を避けて解散を早めたやり方は、“変わらない”ことを宣言したのと同じです。

今この時期に、私たちも“リセット”するのではなく、今までのことをしっかり振り返り、政権選択選挙で主権者としての意志を示したいものです。まず、「結」前号でも紹介した映画のレビューを掲載します。

映画『パンケーキを毒見する』 (2021年7月30日公開/104分)

秋田の裕福なイチゴ農家で育ち、横浜市議を経て国会議員となり、内閣官房長官・総理大臣として8年以上にわたって権力を恣(ほしいまま)にした政治家・菅義偉のドキュメンタリー。

映画は、①参院予算委員会での質疑(日本学術会議任命問題)や記者会見での菅の言動の録画、②(菅とは近くない)政治家・学者・評論家・メディア関係者などへのインタビュー、そして③風刺的なイメージ映像やアニメーションの三様のシーンが次々と展開する構成。内山雄人(たけと)監督は、「ドキュメンタリー」というより「政治バラエティー」と語る。

公開は、菅の退任表明を待たず、東京五輪開催中の7月30日だった(9月総選挙を想定してか)。しかし、その後の末路は必然だったことが、観る者に伝わる。



映画の中で語られる指摘のいくつかを紹介する。

- ・6人の任命拒否の経過・理由を、小池晃議員の質問に対して、全く答えていない。説明できないことをやっているから。自分の言葉を持たない不誠実な答弁は、「こうした答弁を続けることで、国民がうんざりし、政治に対する関心が失われることを狙っているのではないか」

(上西充子・法政大教授:「ご飯論法」と名付けられた事実隠し答弁を批判、国会パブリック・ビューイング代表)

- ・菅政治は、博奕打ちの体質がある。反対を押し切ったふるさと納税、そしてGoToトラベル、東京五輪、デジタル庁、子ども庁…。

また、“人事”によって官僚を動かすやり方は、エリートたちへの“仕返し”ともいえる。安倍政権から続いて重用した杉田和博(内閣官房副長官・人事局長)・和泉洋人(総理補佐官)・北村滋(国家安全保障局長・内閣特別顧問)は、いずれも出身母体でトップに立ったことがないという共通点を持つ。

(元朝日新聞記者・鮫島浩氏)

- ・加計問題で前川喜平・文科省事務次官を黙らせようとした強権的な脅し。「権力を求め、権力に酔い痴れ、権力を守り続けたい」というのがすべて。

・官房長官だった7年間に領収書なしに86億円(一日当たり307万円)使った「官房機密費」。総裁選のためにも多額が使われたことが「受払簿」の差額から推定される。

- ・「今までの総理大臣には上に立つものとしての見識があったが、菅さんにはない」(自民・村上誠一郎議員)
「利権に聡く、金集めのうまい旧来の自民党の利権政治家」(立民・江田憲司議員)
「いくらウソをついても、選挙で勝つことがすべて」

「官僚で、菅さんを人間として信頼している人は誰もいない」(ノンフィクション作家・森功氏)

- ・タイトルは、就任直後、全く会見を開かず、オフレコの「パンケーキ記者懇談会」(毎日・東京・朝日が参加せず、1回目は16社)だけを催したことによる。メディアが権力を監視することを忘れ、「官僚・政府・マスコミの関係性は、戦時中の“大本営発表”と変わらない。合理的判断で物事が進まないし、“間違っている”と誰も言わない仕組みが続いている」(近現代史研究家・辻田真佐憲氏)

- ・若者と政治の距離を近づけようと活動する学生団体「ivote」のメンバーは、「投票しても現状は変わらない」

という意識（小選挙区制の問題も）が投票率の低さにつながっているのでは、と分析する。——上西教授が指摘する“政権の思惑”に乗ってはならない。

アニメの従順な羊たちのシーンでは、「沈黙し、忘れることは、破局へ向かう」という警句が映される。

- ・「批判しているだけの野党だよな」という若者の発言もあるが、“批判するのは悪いこと”という刷り込みを解いていきたい。「どうせ実現できない」と言われる野党の政策も、政権が変われば実現できるのだ。

* * *

上記の映画にも登場した上西充子さんは、一貫して、政治の「言葉」を的確に聴き取り、客観的・論理的な分析・解釈を行うことによって、その政治の「本質」を見極めようとしています。上西さんは、メディアを通して判断をする私たちに、明解な視点を示してくれます。

本『**政治と報道——報道不信の根源**』（上西充子／扶桑社新書／2021年3月刊）

- ・（報道機関が）権力者の言葉をそのまま伝えたときに、それが権力者にとって都合のよい世論誘導につながる危険性（がある。）（P.12）
- ・何を答えたかだけでなく、何を答えないかも重要な事実なのだ。（P.22）
- ・（任命拒否問題で、菅首相の説明に記者が）「国民の方々にはわかりづらい」という言い方をしてしまうと、問題があるのは国民の側であるようになってしまふ。（P.37）

*問題発言をした側が「国民の誤解を招いたとすれば遺憾」と言うのも、聞き手の方が「誤まって解釈した」ということになる。

- ・「一定数の国民にその不誠実が露呈していても、他の国民がそれに気づかずにいるなら、支持率の低下につながることもなく、問題ない」という判断が、政府与党にはあるのだろう。（P.63）
- ・国会の答弁の実態が適切に市民に伝わっていないと、「いつまでモリカケばかり」「いつまで桜ばかり」といった世論誘導をねらった言説に市民が影響されてしまう。そうして、「本当に大事なことを審議せずに政府の追及ばかりを重ねている野党になど政権を任せることはできない」と、世論を現状維持に傾かせてしまう。（P.70）
- ・（記事の見出しで）野党については「反発」という言葉を使い、政府与党については「反論」などという言葉を使う。（中略）その背後には、「女は感情的で、男は理性的」といった固定的なジェンダーバイアスと同様の、「野党は感情的で、政府与党は冷静」といったバイアスが潜んでいないだろうか。（P.106）
→「反発」でなく「抵抗」と表現されると、強い意志で粘り強く抗う、という印象を受ける。（P.107）
- ・（野球でいうと、政権与党は国民生活を守るべき守備側、野党はその粗を衝く攻撃側、という小川淳也議員の譬えを引用し、）与党と野党は、ともに国民生活を守ることに責任を負っている。与党は直接的な形で責任を負っており、野党はチェック機能を果たすという形で責任を負っている。粗を探すのは、しっかりと守備固めをさせ、国民生活に被害が及ぶことを防ぐためであって、相手を打倒するためではない。もちろん与党が守備の役割をしっかりと果たせないなら「交代させろ」と求めるわけだが、それも国民生活を守るためだ。（P.112）
- ・なのに単なる対戦ゲームのように報じてしまうと、それが何のためのゲームなのかが見えなくなる。国会を、単に権力争いや支持率争いのための場のように見せてしまうことになる。そのような報じ方は、国会質疑の意義を損なうものだ。（P.113）

* * *

今年のノーベル平和賞は、強権的な政権への批判を続けてきた二人のジャーナリストに贈られました。ロシアの独立系リベラル紙「ノーバヤ・ガゼータ」のドミトリー・ムラトフ編集長と、ドゥテルテ大統領に批判的な報道を続けたフィリピンのネットメディア「ラップラー」代表のマリア・レッサ氏です。

国連のグテーレス事務総長は、この授賞について次のように述べています。

「不正な行為を調べ、市民に情報を届け、指導者らの責任を問うジャーナリストなくしては、自由で公正な社会は実現しない」「虚偽が事実を超えるようになってはならない。自由で独立したジャーナリズムは、虚偽と闘うための最強の仲間だ」（後藤）



「陸奥爆沈」戦争する国の実態

－ 戦艦陸奥沈没の隠蔽 －

吉村昭著 新潮文庫

炎暑の8月、76年前は、原爆被害、敗戦と続いた。そんな中、新潮文庫「陸奥爆沈」(吉村昭著)を読んだ。さきの大戦中、1943年6月8日、瀬戸内海の岩国に近い柱島沖に停泊していた戦艦「陸奥(むつ)」が、大音響とともに二つに折れて沈んだ。

「陸奥」は、1921年に建造された当時世界最強の3万9千トンの戦艦。同型艦「長門」とともに太平洋での米英との戦いに極めて重要な戦力であった。

海軍中枢は事件が米英に知られることを極度におそれ、一切を秘匿する方針をとった。救難にあたった兵員にさえ沈没艦名を知らせず、目撃したことを外部に洩らすことを禁止し軟禁下においた。沈没海域の島の住民に対しても箝口令と監視が行われた。艦長の遺体は引き上げられたが、これを遺族にも知らせなかった。

爆発は、砲塔下部の弾薬・火薬貯蔵庫の爆発によるものであった。著者の吉村氏は、海軍の査問委員会が、ある乗組員が上官への怨恨から火薬貯蔵庫に放火・自殺に及んだ可能性を把握していたことを当時の資料から明らかにしている。

しかし査問委員会が海軍大臣に提出した報告書にはこのことは触れられなかった。

その背景として、以下のような驚くべき軍隊組織の欠陥が関わっていたことを吉村氏は暴き出す。陸奥と同様に平時に火薬庫爆発を起こした軍艦は、それ以前



に国内で7件も存在した。戦艦「三笠」(2度)「磐手」「日進」「筑波」「松島」「河内」である。これらは全て乗組員の行為によると判明したか疑われた事件であった。

陸奥沈没を秘匿するために海軍は、さらに信じがたい行動をとる。沈没時、陸奥の乗員は1474人、生存して無傷であった兵士は314人いた。彼らは他の軍艦(長門、扶桑)の乗組員として足留めされていたが、同年8月16日、「お前たちは再び内地の土をふむと思うな」との訓示をもって敗色濃い南方の最前線に送られ。サイパンなどの戦場で戦死した。

海軍中枢は機密を知ったことを理由に自国の兵士に口封じをしたのである。

あの戦争を進めた軍隊組織ひいては国家というものが、どのように人間を非道に扱ったかを知った読書であった。(三浦)

行動予定

※コロナ問題の社会状況の変化により変更する場合があります。

10月31日(日) 衆議院選挙投票日

11月3日(水) アベ・スガ政治を許さないスタンディング
13:00~13:30 つくば駅 A3 出口付近 (つくば連絡会主催)

11月9日(火) 9の日署名 12:00~13:00 アルス前

11月20日(土) 世話人会 13:30~15:30 並木交流センター和室

12月3日(金) アベ・スガ政治を許さないスタンディング
13:00~13:30

12月9日(木) 9の日署名 12:00~13:00 アルス前

12月18日(土) 事務局会 10:00~12:30 市民活動センター(予定)

2022年1月3日(月) 新春スタンディング予定(場所・時間未定)

1月9日(日) 9の日署名 (時間・場所未定)

1月15日(土) 事務局会 10:00~12:30 市民活動センター予定 結103号発行

インフォメーション

○10・21 国際反戦デー、12・8 不戦の集いの両方の趣旨を生かした集会在 12 月に開催される予定です。詳細未定。

○11月20日(土) 世話人会は役員改選を議題にします。世話人は極力ご参加下さい。

